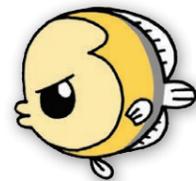




## 実践報告⑤ チリメンモンスターを探せ! & ちょっと待って! その前にちりめんじゃこってなにもの? 大阪自然環境保全協会・チリモン自然観察会 桑原 香織

### 1 概要

大阪府下全市町村での開催を目指し、毎月1回2時間のプログラムを午前と午後の2回実施している。1回の定員は30名前後で、参加費は大人500円、子ども300円。対象は4歳以上で大人のみ参加も歓迎している。



### 2 講座の流れ

#### ① 「みんなの海」作成 (所要時間: 来場から開始まで)

参加者に色画用紙と筆記用具を渡し、「海の生き物」の絵を描くように伝える。描いたものから、ホワイトボード(海の絵を描いておく)に貼り、「みんなの海」を作る(図3-32)。

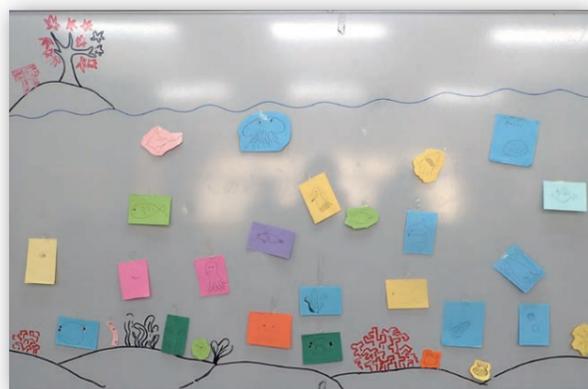


図3-32 開始前の時間で「みんなの海」をつくる

#### ② チリメンモンスターの解説 (5分)

シラス漁の際に、群れの周囲にいた生き物が一緒に網に入る。それらをチリメンモンスターと呼んでいることを説明する。また、チリモンの混じり具合が、実際の海での状態と、必ずしも一致しないことを伝える。

#### ③ 仲間分けの説明 (10分)

必要なものを配り、仲間分けをしていく旨を説明する。

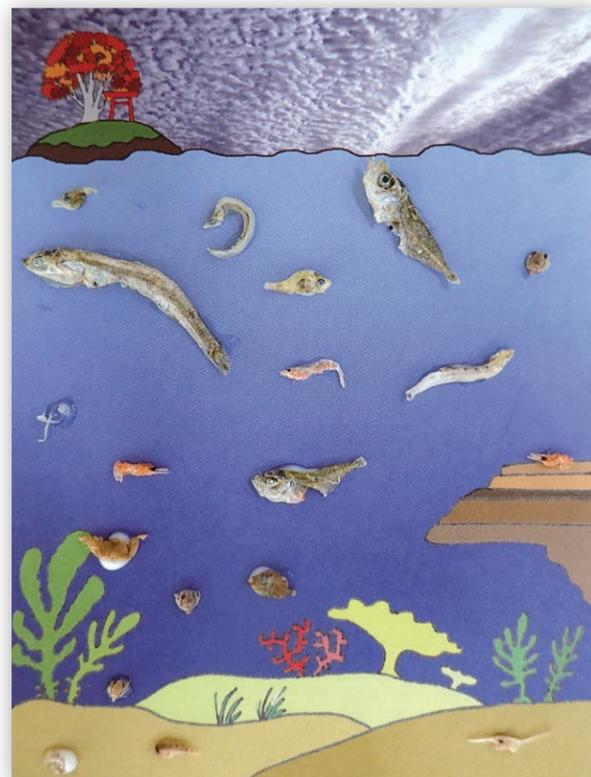


図3-34 「自分の海」



図3-33 パンフレットを見ながら名前を調べる

#### ④ 仲間分けと名前調べ (10分)

ちりめんじゃこ(カタクチイワシ)によく似ているエソを紹介し、かまぼこ・魚肉ソーセージなど原材料表記にエソと書かれている実物を各テーブルに配り、意識せずに食べていたことを確認してもらう。その後、パンフレットを配り、仲間分けをしたチリモンの名前を調べてもらう(図3-33)。

#### ⑤ 「自分の海」づくり (20分)

先細ノズルの木工用接着剤と里海シートを配る。参加者は、里海シートにお気に入りのチリモンを貼りつけ、「自分の海」をつくって持ち帰る(図3-34)。

#### ⑥ 丸干しを使っでの比較 (10分)

ちりめんじゃこ・かえりちりめん・食べる小魚・煮干し・丸干しを順にテーブルに配る。次にウルメイワシの丸干しを配り、カタクチイワシの丸干しと比較して、何が違うかを尋ねる(図3-35)。顔に注目するよう促し、口の違い、目の違いに気づかせる。名前の由来の一説を紹介する。



図3-35

#### ⑦ お面づくり (30分)

カタクチイワシとマイワシ、どちらかのお面セットを選んでもらう(図3-36)。カタクチイワシとマイワシでは、背びれと腹びれの位置関係が違うことを、意識して工作をするよう伝える。



図3-36 お面づくり

#### ⑧ カタクチイワシ生き残りゲーム (25分)

参加者は自分でつくったお面をかぶり、5月生まれのカタクチイワシとなる。翌4月までの1年間を生き残れるか、月ごとのイベントに挑戦する(図3-37)。

### 3 講座の特徴

① チリモンが存在するためには、ちりめんじゃこ(カタクチイワシ)が必要なことから、ちりめんじゃこに注目したプログラム構成にしている。

② 大人のみ参加も可能。子どもと一緒にできあがりや見学は不可とし、大人からも参加費を徴収している。これは、大人も参加者の一人であるという意識づけの意味もある。



図3-37

5月 ヒレがまだ発達していないので、体をくの字に曲げて勢いをつけて、餌となるカイアシ類に飛びつく→膝をくの字に曲げてからジャンプする

6月 しらす漁の船と遭遇→じゃんけん

7月 体が大きくなり、チリモンとして登場するヤムシを食べるようになる→遊び歌に合わせヤムシとカイアシを体で表現する

8月 サバに狙われる→じゃんけん

9月 口吻がカタクチイワシらしくなってきた→カタクチイワシのポーズ

10月 遠くの漁船から尾ひれを必死に振って泳いで逃げる→じゃんけん

11月 体が大きくなり、プランクトンをまとめて食べるようになる→大きく深呼吸をし、えらから海水を排出する真似をする

12月 オオミズナギドリに狙われる→じゃんけん

1月 参加者は網とイワシの2グループに分かれる。網は、手をつないで一列になりイワシを囲い込む。イワシは網の隙間から逃げる

2月 太刀魚に狙われる→じゃんけん

3月 魚群探知機によって発見されたかどうか→じゃんけん

4月 カタクチイワシとしては大人になる→1年を振り返り、じゃんけんに全勝の人がいれば、ハッピーバースデーを歌う。一番多く負けた人には、感謝の気持ちを込めて「ごちそうさまでした」をする

#### ⑨ 感想を共有 (10分)

③ 参加対象を4歳からとしているので、飽きないように10~30分のアクティビティを重ねるようにプログラムを構成し、工作や体を動かすゲームなど異なる要素を取り入れた。また、ゲームは聞きなれた遊び歌の替え歌やじゃんけんの中に、カタクチイワシの生活に関する情報を入れることで、小さい子どもから大人まで楽しめる内容にした。